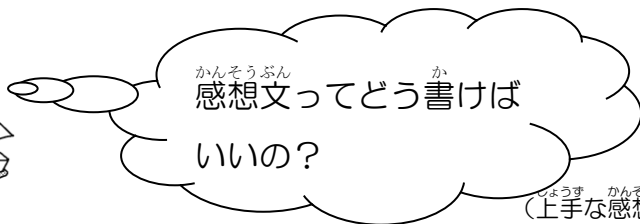


(参考) 読書感想文の書き方



おも
と
思
っ
て
い
る
あ
な
た
!

(上手な感想文よりも、よい感想文をめざそう)

よい感想文とは…本を読んで感動したことを素直に、自分の言葉で書いたもの

本を読む前にぜひ読んでおきましょう!

まずは、読んでメモを書こう。

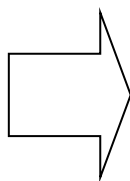
本を読みながら、

「ここいいな」

「ここ使えるな」

(おもしろい、かなしい、あこがれ、似た経験、…)

と思ったところに、ふせんを貼ったり、メモしたりして、読み終わったら思い出せるようにしよう!



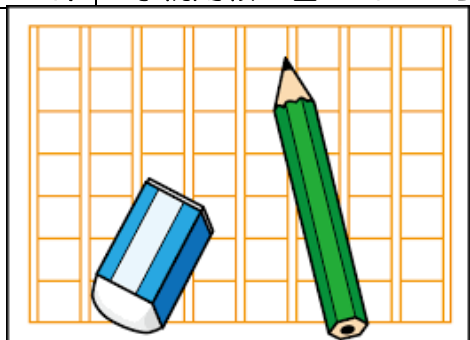
ノートやいろいろな紙に、構成を
考えて、組み立てメモを書こう。
(高学年向けですが、組み立て
メモシートを印刷できます。)

| | | |
|-----|----|-----|
| はじめ | なか | おわり |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ |

紙を切ったり、ふせんを動かしたりして、構成を並べかえても◎

つぎに、もう一度本を読んで、新しく気づいたことや考えたこと、考えが深まったことなどを見つけ、組み立てメモにつけたそう。

そして、原稿用紙に書いていこう



※1行目から本文を書こう

※1枚目のわくの外に

題名・学年・名前を
書こう

【上級者】

本文の書き出しを工夫しよう!

- ・会話文からはじめる
- ・心の声からはじめる
- ・読む人をひき付ける一言

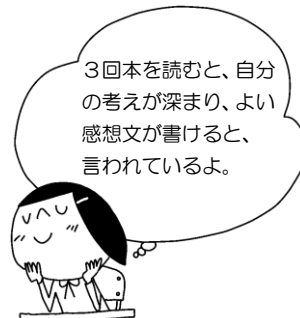
さいごに、(もう一度本を読み、これでよいか確かめ) 見直しをしよう

・字の間違いや、原稿用紙の使い方の確認

・自分の書いた文は、初めて読んだ人にも伝わるかな?

(家の人に読んでもらって、「ここはどういう意味?」

と聞かれたところを詳しくすると、わかりやすい文になるよ)



| | |
|-----|---|
| はじめ | <p>① 本を読んだ（読み始めた）感想から書く。</p> <p>② 本を読んだきっかけ（本を選んだ理由）から書く。</p> <p>③ 本を読んで、自分も同じような経験をしたことがあったら、そのことから書く。</p> <p>④ 会話から書く。</p> <p>⑤ 自分が疑問に思ったことから書く。</p> <p>⑥ 本を読んで一番心に残った場面の文章を使って書く。</p> <p>など、読み手をひきつける書き出し。（あらすじをダラダラ書くのは×）</p> |
| なか | <p>(1) 読んで、特に良かったなあとと思うところや、強く感じたり考えさせられたりしたところ（おもしろかった、ときどきした、すごいなあと思った、感動した、考えさせられた、など）</p> <p>(2) その理由（主人公の行動、考え方、生き方、事件の展開や背景など）</p> <p>※悲しい、かわいそう、えらい、すごいだけでは△。豊かな言葉で表現しよう。</p> <p>(3) 自分が主人公ならどうしたか、自分と比べる。自分の生活や生き方と比べる。</p> <p>同じところ、違うところ、本当にそれでよかったのかなど、批判でもよい。</p> <p>（自分の経験を重ね合わせながら書いてみるのが大事。）</p> <p>（高学年は、今の社会問題や世界情勢と絡めて自分の意見を入れてもよい。）</p> <p>（主人公と自分だけでなく、主人公と他の登場人物とを比べるのもよい。）</p> <p>※メモに書いたことを、(1)(2)(3)の順に整理して、その中でも書きたいことを1つか2つ選んで書く。</p> |
| おわり | <p>この本を読んで<u>考えが変わったこと</u>や、<u>これからこのように生きていきたい</u>と考えたこと等、<u>この本がどれだけ自分に影響を与えたか</u>を書くこと。</p> |

- * あらすじは書く必要はないよ。ただ、「感動したところは物語のここです。」ということがわかるように、原文や簡単にした文を少し入れるとよいでしょう。
- * 下書きは多めに書き、後でいらぬところを削っていくとよいでしょう。
- * 1ねんせいは、主人公への手紙にしてもいいね。えらいなあ、すごいなあ、よんでいてわくわくしたよ、かなしかったよ、自分と同じところ、自分とはちがうところ、主人公に聞きたいことや言いたいことを書いてみよう。

◎どうですか。わたしにも書けそうという気持ちになってきたでしょう。

では、自分がこの本よかったなと思えたら、さっそく始めましょう！

